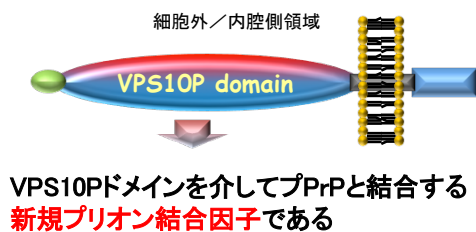


新規のプリオン病の治療法開発を目指した プリオン分解のメカニズムの解明

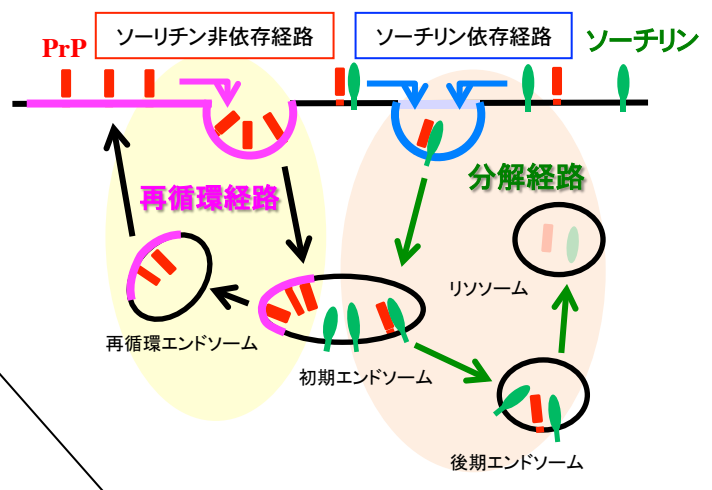
研究開発分担者： 徳島大学先端酵素学研究所 坂口末廣

1 ソーチリンとは？



2

ソーチリンはクラスリン依存性のPrPの取り込みと分解経路への誘導を制御している



3

表 1: ソーチリンノックアウトマウスにおけるプリオン感染

マウス	潜伏期
野生型	172 ± 6
ノックアウト	151 ± 8

解 説

- ソーチリンは、小胞輸送における積荷タンパク質受容体としての機能を持ちこれまでPrPとの結合やPrP輸送に関与することが報告されていない新規PrP結合因子である。
- ソーチリンは、細胞表面からのPrPの取り込みと、後期エンドソームからリソソームへ向かう分解経路にPrPを誘導することが明らかになった。また、ソーチリンの機能抑制は、分解経路が抑制されるため細胞表面に再循環するPrPが増加、細胞表面でPrPが蓄積する。
- ソーチリンノックアウトマウスはプリオン病を早期に発症する。